

【試合結果】7/5 オープン戦：降雨コールドで記録上はノーゲーム。悪天候で見た次への収穫と大きな課題

2026年7月5日（日）、オープン戦が行われました。

当日は試合前から激しい雨が降り続くあいにくの天候となり、足元の悪い劣悪なグラウンドコンディションのなか、5回表（先方攻撃中）に降雨コールドゲームとなりました。

5回表途中での幕切れとなったため、公式記録上は「ノーゲーム（参考試合）」となりますが、実質4回裏までの攻撃という短い時間の中でチームは5得点をマーク。しかし同時に、悪天候だからこそ露呈した「心と技術の課題」に向き合う、今後の成長において非常に意味のある一戦となりました。

📋 試合結果（7月5日 オープン戦）

- 神戸ポニー 5 — 相手チーム（5回表 降雨コールドによりノーゲーム）

	0	0	0	4					
兵庫神戸	1	2	0	2					



部門別ハイライト＆成果・課題

独自の『選手成長ステップチェックシート』に基づき、短時間の中で見つかった成果と反省点を定量的に分析しました。



攻撃部門：悪条件を突いた積極性と効率的な加点

短い攻撃時間のなかでも、特定の選手を中心に効率よく5得点を積み重ねました。

- 悪条件を跳ね返すフルスイング：雨の中でも、Y.M選手が2回の初球フルスイングを見せて打線を鼓舞！T.S選手、K.T選手も果敢にストライクを狙い打つ姿勢を徹底しました。
- 軸としての役割と出塁：中軸のY.M選手が3塁打分の活躍と1打点をマーク。T.H選手、K.T選手も手堅く安打・塁打を放ちました。また、K.T選手、K.Y選手、S.H選手らは選球眼を発揮して四死球を選び、確実にチャンスを拡大しました。
- 足でのプレッシャー：K.T選手が1盗塁を決め、ぬかるむグラウンドでも果敢に次の塁を狙う意識を継続しました。



守備・規律部門：【反省】環境に負けた集中力の低下

今回の試合で最も大きな課題が残った部門です。雨と泥に気を取られ、チーム全体に集中力の低下が見られました。普段なら当然できている基本プレーや状況判断が疎かになり、手痛いボーンヘッドを招きました。

- 視野の狭さと基本の徹底不足：
走塁時において、怪我防止や確実なセーフのために必須である「スライディング」を怠る場面（R.S選手）や、前を走るランナーの動きを俯瞰できずに進塁を焦ってしまった判断ミス（K.I選手）がありました。これらは「一球への執念」と「視野の確保」を欠いた、雨のコンディションに心が負けてしまった典型的な例です。

- 「考える声出し」の重要性：
当クラブが重視する「仲間同士の指示・声掛け」が不足していました。相手投手のワンバウンドボールに対する進塁コーチの指示や、ランナー2、3塁という勝負所で「打球がどこに飛んだらどう動くか」をベンチと走者が事前に確認し合う声が飛び交っていれば、ミスを防げただけでなく、さらに試合を圧倒できていたはずです。

投手部門：早いカウントから攻める好テンポ

短いイニングのなかで、マウンドに上がった2名の投手陣が安定したピッチングを披露しました。

- **T.H選手**（投手スコア：**14点**）★最高得点
4イニング分で初球ストライクを次々と奪い（8点分）、3球以内での追い込みもきっちりマーク。早いカウントから相手を追い詰めるテンポの良い投球でチームを牽引しました。
- **K.T選手**（投手スコア：**11点**）
初球ストライク、先頭打者アウト、3球以内追い込みをしっかりとマークし、先発としての役割を堂々と果たしました。

今試合の個人獲得スコア一覧

指導部集計による総合トータルスコアです。ミスに対する厳格な減点（※）も含め、現状の課題をリアルに反映しています。ここからの巻き返しに期待です！

選手名（学年）	野手スコア	投手スコア	総合スコア	特記事項・輝いたプレー・課題
T.H （中2）	9点	14点	23点	投手としてチーム最高の14点。テンポの良い投球で文句なしのMVG。
K.T （中2）	7点	11点	18点	投打にわたり高い集中力を発揮し、バランスよくチームに貢献。
Y.M （中3）	8点	0点	8点	フルスイング4点、塁打3点、1打点。攻撃の軸として機能！
K.Y （中3）	5点	0点	5点	四死球を選んで確実に出塁。手堅くスコアをキープ。
T.S （中2）	4点	0点	4点	初球フルスイングなど、積極的な仕掛けから4点を獲得。

K.M (中2)	4点	0点	4点	短いイニングの中で手堅くプレーし、手堅くチームに貢献。
S.H (中2)	1点	0点	1点	四死球による出塁で、最低限の加点クリアを果たす。
K.I (中2)	-2点	0点	-2点	前の走者を見ずに進塁しようとするミス。視野を広く持つ意識を！
R.S (中3)	-5点	0点	-5点	走塁時のスライディング不実行。基本と規律の徹底を猛省。
T.O (中1)	0点	0点	0点	加点なし、次戦での活躍を期待！

指導部総括

天候不良のため5回表で途中終了(ノーゲーム)となりましたが、今回のオープン戦はスコア以上に、技術の手前にある「規律と視野」を厳しく見直すべき一戦となりました。

雨やぬかるむグラウンドに気を取られ、チーム全体の集中力が落ちてしまったことは大きな反省点です。私たちが目指す「考える野球(Thinking Baseball)」は、このような極限状態の時にこそ、仲間同士の声掛けや事前の状況確認によってお互いを補い合わなければなりません。短いイニングの中でT.H選手の安定した投球などの収穫もありましたが、全員が「環境や天候を言い訳にしない強い精神力」を身につけなければ、ここからのステップアップはありません。どんな過酷な状況下でも、一球に対する規律と事前確認を徹底すること。次戦は組織として隙のない、洗練された野球を体現できるよう、日頃の練習から全員で意識を塗り替えていきましょう！

悪天候のなか、応援いただいた保護者の皆様、誠にありがとうございました。引き続き、熱いご声援をよろしくお願いいたします！